# 関ー連ー施ー設ー便ーり

## 帝京大学ちば総合医療センター

〒299-0111 市原市姉崎 3426-3 TEL 0436-62-1211 FAX 0436-61-3961



早いもので2013年11月に田中邦哉教授が外科教授として帝京大学ちば総合医療センターに赴任されて以来、3年目に入りました。当教室は、千葉大第1外科・第2外科・帝京大学・横浜市立大学の混成部隊で編成されているユニークな教室ですが、それぞれ異なる環境で育ってきた教室員が協力して日々の診療にあたっています。昨年より消化管外科は幸田教授、肝胆膵外科が田中教授、そして昨年は乳腺・甲状腺外科に千葉大第2外科より宮澤教授が赴任され3つのdivisionとなりました。田中教授が赴任以来、尽力してきた教室運営も、良い面は踏襲・一部変更・修正を行いながら現在では、朝のカンファレンス、術前プレゼンテーション、術後報告、研究カンファレンス、Mortality and Morbidity conference,各チームによる患者の担当、専門外来性導入などの体制が定着してきました。

肝胆膵外科の現体制は、田中邦哉教授、松尾憲一(講師)、廣島幸彦(助教)、菊地祐太郎(助手)の4人であり、この4月から菊地先生に代わって笠原康平先生(助手)が来てくれることになっています。肝胆膵外科4人体制で日々の診療・研究を行う上で横浜から来てくれている若手医師は、絶大なパワーとなっています。一方、消化管外科も幸田教授をはじめ7人体制、また新たに誕生した乳腺・甲状腺外科は宮澤教授、佐塚先生の2人体制であり外科教室全体としては13人となりました。

2015年の手術件数は約500例であり、そのうち肝胆膵 チームの主要手術の内訳は、転移性肝癌33例、肝細胞癌 10例、肝内胆管癌1例、肝門部領域癌1例、膵頭十二指 腸切除5例などでした。昨年、日本肝胆膵外科学会が認 定する高度技能専門医修練施設Bも取得し、肝胆膵外科の高難度手術は計41例、全体では55例の肝胆膵外科手術を行い、高難度手術50例を目標に頑張っているところです。その他、良性胆道疾患は39例であり、うち腹腔鏡下胆嚢摘出術は35例、開腹胆摘1例、総胆管切開切石術が3例とおよそ週1回程度の頻度で行っています。複雑な手術を除いて基本的には横浜からの若手医師が田中教授のご指導のもと術者として手術を行っており、肝胆膵外科手術を多く経験できると思います。今後は修練施設Aを目指して、さらに症例数を増やして若手の先生も今以上により多くの症例を経験できるようになると思っております。

学術関連では、肝胆膵外科チームの学会発表は65演題 (シンポジウム2題、パネルディスカッション3題、ワークショップ4題、要望演題2題、一般演題15題、ポスター18 題、その他ディベート・主題演題・企画関連講演は合わせて5題でした。田中教授の座長・司会は6題、講演・ランチョン10題と多忙の毎日です。論文発表は13題(英文12題、邦文1題)と忙しい臨床業務の中でも意欲的に取り組んでいます。田中教授の掲げる目標の一つである「Academic Surgeonであれ!」という言葉をいつも忘れずに頑張っています。

アクアライン通勤も3年目となり、だいぶ慣れてきました。横浜から約1時間であり、十分通勤圏内です。大学附属病院として臨床・研究・教育に一層の努力をして参りますので何卒よろしくお願いいたします。

(文責:松尾憲一)



#### 独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター

国立病院機構横浜医療センターは、2010年4月に新装 されて6年目に入りました。

当センターは、横浜市南西部地域中核病院、地域医療 支援病院、神奈川県がん診療連携指定病院に指定されて います。救命救急センター、ICU、CCU、SCU、小児救 急、周産期センター、NICUを備えた地域の急性期型高 度総合病院として機能しています。

診療面は、関戸統括診療部長の御指導の下、計8人の スタッフが2チームに分かれて診療を行っています。2015 年の手術件数は、年間623件でした。主な手術件数は、 腹臥位胸腔鏡下食道切除再建4例、胃癌切除44例、大腸 癌切除85例↑、肝切除28例、膵頭十二指腸切除9例、腹 腔鏡下胆摘74例、開腹胆摘32例、虫垂切除74例、鼠径へ ルニア根治術91例でした。特に大腸癌手術数の増加が目 立ち、ラパコロンの比率が昨年の65%から75%と増加し ました。

今年の話題として、11月に近隣医師会との合同消化 器癌検討会で、遠藤格教授に「胆道・膵臓癌の最新外 科治療」について情熱あふれる御講演を頂きました。

また、消化器外科(へるす出版)2015-6月号の研修 病院紹介コーナーに当科が載り、全国に研修プログラ ムをアピールできました。若手外科医にとっては、消 化器手術から外傷系の緊急手術まで幅広く執刀経験が でき、心臓血管外科(女子医大系)の手術にも入り易 いことから、外科専門医修得に有利な病院です。内視

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

鏡外科トレーニングは、国立病院機構の全国規模の研修 があり、チームで毎年参加し、非常に効果が上がってい ます。

研修医の先生たちにも外科手術の楽しさを伝えるべく、 開腹操作やラパコレで胆嚢漿膜切開、CUSAで肝切離、 ヘルニア手術を経験してもらっています。今年は例年よ り多い5人の研修医の先生が外科を回り、入局希望者も 出てきています。今後も外科医になる若手を増やせるよ うに尽力していきたいと思います。

今年の写真も、病棟の窓から撮影した夕日に映える富 土山の絶景をご覧ください。

今後とも地域で選ばれる病院になるべく、スタッフー 同協力しあって日々診療を頑張っていきたいと思いま す。同門会の先生方には今後とも御指導、御協力の程ど うぞよろしくお願い申し上げます。

(文責:松田悟郎)



#### 横浜市立市民病院

〒240-0062 横浜市保土ケ谷区岡沢町 56 TEL 045-331-1961 FAX 045-332-5599



平成27年の横浜市民病院は、新病院の移転先が「現三ツ沢公園の一部及び隣接する民有地」と決定されたことをうけて、設計業者が選定され基本設計の作成が今年度中に決定する予定です。 平成28年度中には実施設計を策定し、平成29年度から建設工事に着手する予定になっています。大分新病院の全体像も明らかになりつつあり、平成32年度の開院にむけ病院全体が一丸となって取り組んでいるところです。

さて平成27年の外科は、杉田昭副院長のもと、以下消化器外科4人(大学ローテート1人)、炎症性腸疾患外科4人(大学ローテート1人)、乳腺外科2人(大学ローテート1人)のスタッフと5人の後期研修医(大学ローテート1人)、2ヶ月毎にローテートする3人の初期研修医で診療を行いました。外科一同、外来、病棟、手術、救急診療と日夜仕事に励んでいます。

さて、外科が消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患外 科の3つに別れ、7年経過しました。2015年の総手術件 数は、外科全体で前年を上回り1300例をこえました。内 訳は消化器外科約800例、炎症性腸疾患外科約355例、乳 腺外科約150例でした。

消化器外科では、大腸癌手術症例数は前年よりやや増加し、腹腔鏡下の手術の割合も71%と上昇しました。胃癌手術症例数は減少しましたが鏡視下手術は増加し、肝胆膵領域では膵頭十二指腸切除術を14例、腹腔鏡下肝切除術を2例行いました。乳腺外科は、手術件数が増加し、ほぼ全例でセンチネルリンパ節生検手術を導入し、地域連携パスの運用も増加させました。炎症性腸疾患外科は、関東圏はもとより全国から患者を受け入れ、年々患者数、手術件数とも増加しています。

緊急手術は238例で前年とほぼ同数でしたが、急性虫 垂炎は昨年の108例から113例と増加しました。予定手術 が多く手術室も9室と限られている現状では、この程度 が限界と思われます。

今後も地域中核病院として周辺の医療機関と連携を密にし、より一層地域医療に貢献していきたいと思います。これからも、ご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

(文責:望月康久)

#### 南面より



#### 公園側からの外観



### 藤沢市民病院

〒251-8550 藤沢市藤沢 2-6-1 TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545



平成27年度藤沢市民病院外科におけるもっとも大きな イベントは仲野先生が病院長に就任したことです。6月 6日には院長就任祝賀会が同門会主催で盛大に行われま した。医局員の先生方には多大なご協力をいただき、誠 にありがとうございました。

次に大きなイベントとしては新東館の完成に伴い、医 局・病棟の引越しを行ったことです。外科病棟は新東館に 9月から2月まで一時的に移転しましたが、その間ホー ムグランドの西館の内装をリフォームし、2016年2月7日 より元の西館に戻りました。リフォーム後の病棟は思っ たよりきれいで、気持ち良いですが、天井の高さ、廊下 の広さなどは新東館の方が断然優れています。今後は旧 東館の解体や、新東館と西館を繋ぐ中央棟の建設などが 予定されており、2017年12月には全工事を終え、全館リ ニューアルオープンする予定です。

院内の体制は、呼吸器外科は前院長の城戸先生が退官 しましたが吉本は不変で、外科・消化器外科の診療は、 仲野院長、上田、山岸、牧野、山本、鈴木が担当し、松 木、清水、田中が呼吸器外科と外科、消化器外科をロー テートしました。松木は医局人事で8月から横浜労災病 院に異動し、代わりに森が就任しました。今年度も優秀 なスタッフに恵まれ、楽しく、時には忙しくつらい時も ありますが大きなトラブルもなく診療してきました。緩 和医療科は江口が外来や院内の緩和医療チーム長として 診療しています。

主な手術件数は乳癌79件、肺癌54件、食道癌2件、胃 癌74件、結腸癌114件、直腸癌40件、原発性肝癌10例、 転移性肝癌8例、胆道癌8例、膵癌12例、胆石症106例、 虫垂炎73例、鼠径ヘルニア131例でした。今年度は、乳

腺担当の山本が同門OBの河野先生と協力し、乳癌手術 件数が前年より33件増え、外来化学療法も円滑に施行で きています。また、上部消化管担当の牧野がガイドライ ンに則りLADGを本格導入し年間20例を超えました。大 腸癌に対する腹腔鏡手術は127件(82.5%)となり、昨年 同様年間100件を突破しました。肝・胆・膵は上田を中 心に例年と同様の手術件数を行い、多発肝転移症例も術 前化学療法後に積極的に切除し、適応を厳格にして腹腔 鏡下肝切除術も施行しています。また、全体の手術件数 は840件で前年より67件増加し、定時手術672件、緊急・ 臨時手術168件で、緊急・臨時手術が多く、予定が立て づらい状況が続いています。

学術関連は、学会発表が48演題 (パネルディスカッ ション4演題、ワークショップ3演題、要望演題5演題)、 論文発表が3題と昨年と同様であり、手術だけでなく学 術面でも意欲的に取り組んでいます。また、例年同様に 消化器内科、外科合同カンファレンスを地域の開業医の 先生方と2か月に一度院内で開催し、紹介患者さんの情 報交換と症例検討会を行っています。さらに、近隣病院



との連携、親睦を目的に「湘南colon cancer conference」を今年度も開催し、がん総合医科学主任教授の市川靖史 先生をお招きして最新の大腸癌化学療法についてご講演 いただき、地域医療の発展に努めています。

地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、救命 救急センター、周産期救急医療中核病院、災害拠点病院 として、地域医療に貢献し、高水準の医療を提供できるよう努力してまいりますので、これからも同門の先生方の益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責:山岸 茂)



## 伊東市民病院

2015年の当院外科は、消化器・腫瘍外科からは私1人と、京都府立医大出身の城野医師(S59)、自治医大出身の児玉医師(H19)の3名体制で診療をおこなっています。昨年度よりマイナス1となりました。スタッフ数の減少とは関係ないと思うのですが総手術件数(NCD数)は昨年を下回ってしまいました。緊急手術は若干増加し消化器癌の手術もほぼ同数でしたが鼡径ヘルニアとラパコレの件数が今年も減少傾向でした。

結腸癌・直腸癌に対する鏡視下手術はようやく半数近くに増えてきました。いっぽう腫瘍の大きい症例や手術を短時間にしたい症例などで、まだ開腹を選択するケースがあります。今後ますます低侵襲手術が増やせるよう、技術の向上でカバーできる部分については努力していきたいと考えています。

現在当院は、地域医療支援病院の認定を目指しています。その一環として開催される地元医師会との病診連携 懇談会に、外科としても積極的に参加しています。今年 はメンバー紹介に始まり、症例の紹介・検討や手術ビデ オの提示をおこないました。一人でも多くの医師会の先 生方と"顔が見える関係"を構築し患者様の紹介増加、 治療後のスムースな在宅移行を図り、外科の業績アップ 〒414-0055 伊東市岡 196-1 TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

にも繋げたいと考えています。

昨年はハイケアユニットが12床に増え、重症患者の受け入れ態勢もじゅうぶんに整っています。緊急手術件数が増加している事が示すように、地域住民・地元医師会からの当院への期待を非常に感じる事がしばしばです。これを裏切る事のないよう微力ながら地域貢献できれば、と考えています。医局には手術指導等、力をお借りする事があるかと思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責 神谷紀之)



私のお気に入り、夕暮れ時の外観です。

#### 横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂 1-3-2 TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

横須賀市立市民病院は横須賀市・三浦半島西部地区の 中核病院です。三浦半島の西海岸に位置し、西には豊饒 の海相模湾を、東には半島随一の頂、大楠山を望む風光 明媚な場所に位置しています。伝統と格式ある首都圏の リゾート地、葉山はすぐそこです。最上階の食堂からは 相模湾越しの美しい富士山が望めます。

2015年度(平成27年度)の外科は病院管理者久保(昭 50) 以下、副院長・診療部長の亀田 (昭63)、長嶺 (平5) の他、個性溢れる以下のメンバーで日夜診療に励んでい ます。佐藤(渉)(平19)は大学院生としての研究とサー ファー生活の両立に苦悩するのみならず、チームリーダー たる長嶺の - 部長曰く「その話は五万回聞いたワ」と呆 れられている - 古臭いジョークに四六時中苛まれながら も日々精進を重ねる毎日。三宅(益代)(平21)はその母 性と個性を遺憾なく発揮、母として妻として八面六臂の 活躍でフル稼働しつつも、欠食児童達の「おやつ整備 係」としてのやさしさも忘れていません。末っ子格の「聞 き上手」山本(淳)(平23)は天性の素直さでメキメキ腕 を上げていますがアルコールの研究はほどほどにしなく ては。新入局の鈴木(平25)は肉体的にも精神的にも兎 に角汗をかきつつ頑張っています。さらに日大出身の 「理論派」杉浦(平6)を加えた計7名で診療にあたっ ています。

高齢化社会の波を受けて、85歳以上の超高齢者や重篤 な併存疾患を有する症例も多くなってきましたが、これら 困難な症例にも外科チーム一丸となって対応しています。

年間の手術症例は400例ほどですが、ほとんどの術者 は若手ローテーターですので、十分な手術経験、修練を 積めると思います。安心してください!



若きローテーターの皆さん! 是非我々と一緒に働きま しょう。この相模湾に面した横須賀西海岸地区で、住民 の皆さんから長く愛され、信頼されている病院です。必 ず皆さんのやる気を後押ししてくれる病院です。周りに はおいしい食べ物や肴、お酒もあります(詳細は山本ま で)。デートスポットもたくさんあります(多分、詳細は 佐藤まで)。最近当院をまわった先輩に評判を聞いてみ て下さい。(多分…大丈夫なはず…です。)

当院は平成22年4月1日以降公益社団法人地域医療振 興協会が指定管理する、所謂「公設民営化」病院へ移行 しました。民営化後6年が経過し、久保管理者の強力な リーダーシップのもと着実な経営改善、健全化へと向かっ ています。これもひとえに、同門の先生方のご支援の賜 物だと大変感謝しております。

以上、当院の近況報告をさせていただきました。同門 の先生方におかれましては新年度も引き続き、ご指導ご 鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(文責:長嶺弘太郎)



## 横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町 3211 TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

横浜労災病院は、横浜市北東部医療圏の地域中核病院 として1991年に開設されました。2012年4月に横浜労災 病院に乳腺外科が新設され、横浜市立大学消化器・腫瘍 外科学の教育関連施設として診療を開始しました。2015 年4月からは乳腺外科のスタッフが一新し、千島隆司、 木村万里子、門倉俊明の3名と原田 郁(週2日・非常勤) で診療にあたっています。2015年1月から12月の手術実 績は、悪性疾患の根治手術が223例、良性腫瘍、炎症疾 患、リンパ節生検などを含めると手術総数は295例とな り、横浜市内では神奈川県立がんセンターに次ぐ手術件 数となっています。その他にも画像ガイド下組織生検の 113例を含めると、乳腺外科のNCD登録数は400例を超え ています。また、形成外科とのコラボレーションにより 乳房一次再建例も増加しており、2015年の一次再建は51 例(自家組織11例、組織拡張器40例)で、2014年と比べ て症例数は2倍以上になっています。これらの症例数を 維持できるのも、木村先生、門倉先生の活躍があっての ことで、昼夜休日を問わずに頑張ってくれている二人に は心から感謝しております。

2015年8月には、消化器・腫瘍外科学から当院の外科 (主に消化器外科を担当) へ松木 裕輝が赴任し、横浜労 災病院への派遣医師は4名体制となりました。外科のス タッフは、主に千葉大学先端応用外科学(旧第二外科) からの派遣ですが、東京医科歯科大学からも1名の応援 医師が来ており、副院長、消化器病センター長、外科部 長以下10名の外科医で診療にあたっています。外科の手 術件数は例年700例前後で推移しており、胃癌、大腸癌 などの悪性疾患以外にも、急性胆嚢炎、虫垂炎、ヘルニ アでも積極的に腹腔鏡下手術を取り入れているのが特徴



※平成27年度横浜労災病院研修医報告会で「乳房一次再建における合併症とそのリスク因子に関する検討」が優秀賞とベストティーチャー賞に輝いたときの写真です。

です。また、当院は横浜市内有数の高次救急病院であるため、外傷を含めた様々な緊急手術が経験できるので、若手外科医の修練には適した環境となっています。その他、呼吸器外科(横浜市立大学)、心臓血管外科(東京大学/聖マリアンナ医科大学)、小児外科(千葉大学)が揃っており、外科学会専門医修練施設としても魅力的な病院といえます。

#### - 松木先生からのコメント-

横浜市立大学からの派遣医師は、現在1名のみのため寂しく思うこともありますが、千葉大学、東京医科歯科大学の先生方と仲良く仕事をさせて頂いています。横浜労災病院の乳腺外科には、千島先生を始めとする消化器・腫瘍外科の諸先輩方がいますので、時折飲みにさそっていただけるも魅力です!



松木先生の加入により、外科と乳腺外科の交流もますます盛んになっています。横浜労災病院が、消化器・腫瘍外科学の教育関連施設として「より魅力的な病院」となれるように、明日からの診療も頑張っていきたいと思います。

(文責:千島隆司)

## 横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通 1-16 TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103



横須賀共済病院では、横須賀市、三浦半島における地 域医療支援病院・がん診療連携拠点病院として急性疾患 からがん診療までスタッフ一同診療に励んでおります。

2014年4月に長堀薫先生が病院長に就任され外科全体 がさらに活気づいております。院長は「若手外科医が楽 しんで仕事をする、救急は全応需する」ことを強調され ており、スタッフは以前よりさらに多くの手術を経験し ています。当直後はスタッフ同士が業務を補完しあいな がら、off dutyの義務化を推進し(まだ不十分な点も多く ありますが!)、最近は、休日に研究会のお手伝いや、ラ ボの指導に出席した場合、平日に休みをとれるように なってきており、仕事とオフどちらも充実させられるよ うに試行錯誤しております。

今年度も腹腔鏡手術が手術の主体を占めており、ヘル ニア、虫垂炎などの良性疾患から胃癌、大腸癌、肝臓癌、 膵体尾部癌などの悪性疾患まで、手術の多くが鏡視下で 行われています。この流れは外科だけでなく、婦人科、 泌尿器科、耳鼻科、脳外科、整形外科など他科にも広 がっています。

術後のフォローアップは従来通り横須賀市医師会、近 隣病院と連携して地域連携パスを適用しており、胃癌、 大腸癌、乳癌の早期患者はほぼ全症例紹介いただいた先 生方に見ていただくことが可能となっております。現在 は胃癌、大腸癌術後の補助化学療法に対する地域連携パ スも導入してきており、今後さらに地域の中核病院とし

て、外科専門研修プログラムにおいては専門研修基幹施 設として、役割を果たしていきたいと考えております。

学術関連は、地域診療所の先生方、病理、内科、外科 合同の消化器病カンファランスを定期的に行なっており、 さらにそれを発展させた形で年2回横須賀消化器病セミ ナーを行っています。また、今年度も横須賀共済病院を 筆頭とする学術集会総会の発表がさらに増えており、学 会中の手術数の制限と人員不足がひとつの課題となりま すが、若手外科医にとってよい刺激の場となるため、今 後も両立していくことが必要と考えています。

今年度の診療体制も昨年と同様に、舛井部長、茂垣部 長のもと平成12年から19年までの比較的若い中堅医師を オーベンとした若手外科医中心の診療が行われています。 今年の新規シニアレジデントは2名であり、医局からの 派遣医師1名と合わせて卒後5年以下の外科医が5名と診 療の中心となっています。救急患者数も非常に多く、高 難度な手術から緊急手術まで幅広く経験することができ る忙しくもやりがいのある職場であると実感しています。

今後も地域医療支援・がん診療連携拠点病院として、 地域医療に貢献し、さらにより高水準の医療を提供でき るよう精進していきたいと考えておりますので、益々の ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いします。

(文責:木村 準)

## 横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下 3-12-1 TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101



横浜市立みなと赤十字病院は横浜市立港湾病院と横浜 赤十字病院の機能を継承し、2005年4月に開院した公設 民営化の病院で、今年で開院10年を迎えることが出来ま した。

2015年4月から、外科では杉田光隆、小野秀高、中嶌雅之、大山倫男、中山岳龍、杉政奈津子、柿添学、平井公也とシニアレジデント2名の10名が3チームに分かれ、乳腺外科では清水大輔、シニアレジデント1名と東京医科大学の石川先生の教室から1名の計3名が、緩和医療科では小尾芳郎が日々の診療にあたっています。また本年度も引き続き、がんセンター長の阿部哲夫が、非常勤として月曜~水曜に外来、手術のお手伝いをして頂いており、毎週水曜日には関沢クリニックから高橋徹也先生に来て頂いて大腸肛門疾患について外来・手術をお願いしております。また、殆どの1年目の研修医の先生が外科を選択していただくため、常に各チームに1-2人が一緒に診療にあたっております。

当院は、救急車の搬送が日本で1,2位を争うほど多く、 基本的に救急搬送依頼を断らないことを基本としており ますので、当然ながら緊急手術が多く、絞扼性イレウス、 消化管穿孔、急性虫垂炎などの緊急手術が多いのが特徴 です。

昨年度より救急科に救急外科部長として来て頂いたため、日中の緊急手術は、予定手術を待たずに行うことが 出来るようになり、一昨年までの問題であった、緊急手 術が夜間になってしまい、帰宅が遅くなるという問題点 は改善されました。さらに本年度はシニアレジデントも 増え、非常に充実した診療が行えるようになりました。 一方で、若いスタッフが増えたため、相変わらず術者になる機会も少なってしまっているのは否めません。しかしながら、各々の臓器のスペシャリストが若手外科医の育成できる教育システムを充実すべく努力しております。

シミュレーションセンターも申請すれば使いたい放題で、 LAP Mentorも常備されており、腹腔鏡のトレーニングも 行うこともできます。

高齢者や全身状態が不良な患者様が多いのも当院の特徴で、術後の集中管理に関しては、ICUの先生方にも協力していただきつつ、治療を行っております。

また、当院は平成2012年4月から地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、毎週火曜日に消化管キャンサーボードを、毎月第2水曜日に肝胆膵キャンサーボードを開催しており、消化器内科、病理、放射線科の先生方も含めて、活発な討議がなされております。

腹腔鏡下手術も積極的に導入しており、上部消化管では約1/3が、下部消化管では9割が腹腔鏡下手術を行っております。腹腔鏡下手術の導入が遅れた半面、手術機材は5mmのフレキシブルスコープ、AirSeal、録画装置などの最新のものが揃っております。さらに、一昨年度導入したDa Vinciは、泌尿器科ではコンスタントに手術が行われており、今後は外科でも行えるように準備を始めております。

院内のハード面も充実しており、術前検査を全て組んでも1週間はかからずに終わる事ができ、MRIやPET/CT等の検査に関しては、他院からの予約を受け付けることも出来ます。

一方で、立地条件で交通の便が悪いというビハインド

も否めず、地域の先生からの紹介もしてもらいづらいと いう事もありますが、地域連携パスを積極的に導入して、 術後は紹介元の先生と連携してフォローアップをさせて 頂いております。

地域の先生方との連携としては、年2回、横浜消化器 疾患研究会や病院主催の医師会との合同研究会などを開 催しており、交流を図っております。

外科の週間予定は、月曜日の朝に全体患者の経過のカ ンファレンス、火曜日の夜に術前カンファレンス、消化 管キャンサーボード、水曜日の朝に病棟師長とベットコ ントロールを含めたカンファレンス・抄読会、木曜日の 朝に術後報告を行っており、火曜日以外は毎日手術日と

なっております。

医局はオープンな総合医局で、診療科で固まらないよ うに配置されているため、他科との交流・意思疎通の良 さが感じられます。医師の数は年々増加しており、それ に伴って医局の部屋が3つにまで増えてしまいました。

ここまで開院10年を迎え、軌道に乗りつつありますが、 さらなる地域医療に貢献すべく、質の高い医療を提供で きるように精進する所存ですので、今後とも、益々のご 指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責:小野秀高)

## 済生会横浜市南部病院

TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335



済生会横浜市南部病院は横浜市と済生会の官民共同で 建設され1983年に開院した、27診療科500床の地域中核 病院です。急性期医療を担うとともに、「地域医療支援 病院」として地域医療機関との病診連携も推進し、2013 年4月には神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受け、 がん診療支援センター(センター長:池秀之先生)を設置 し、大腸がん・胃がん術後の診療連携パスも積極的に活 用し、がん診療体制の充実を計っており、地域との連携 活動としては、合同カンファレンスや緩和ケア研修会等も 継続して行っています。加えて、昨年よりYOKOHAMA Colorectal Cancer Seminarを開催し、本年は副作用マネ ジメントとチーム医療をテーマに病病連携にも努めてい ます。また、市民公開講座や、南部病院コンサートとし

て各種のコンサートに加え、ブラックジャックセミナーも 今回で5回目となり、港南区内の中学生に参加していた だき、内視鏡トレーニング体験、手術シュミレーター体 験、手術縫合やエナジーディバイスの使用体験等を行い、 地域に根差した活動を行っています。

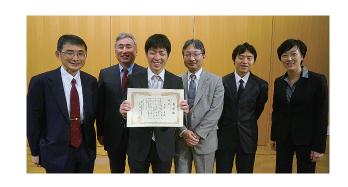
当院の特徴は第二外科と第一外科の両方から派遣され ている関連病院ということで、病院長は第一外科の今田 敏夫先生、がん診療支援センター長、診療顧問は第二外 科の池秀之先生です。外科スタッフは第二外科からは福 島忠男、長谷川誠司、嶋田和博、高川亮、和田朋子、南 澤恵佑の6名、第一外科からは平川昭平、村上仁志、林 勉、渡辺卓央、嶋田裕子、澁谷泰介、根本大士の6名、 さらに救急から出向して頂いている横井英人先生の計13 名で構成しています。今年も緊急手術は20%近くあり、 昼夜にわたり両外科スタッフが一体となって手術に従事 しています。

2015年の外科手術は1142件で昨年より若干増加していますが、1100件/年程度の手術を行っています。緊急手術は192件でした。鏡視下手術は、大腸癌では約40%、胃癌の約30%と若干減少しましたが、虫垂炎の約70%は鏡視下で行いました。鼠径ヘルニアでも積極的に鏡視下手術を行っており、若手スタッフの鏡視下手術の修練も順調に行えているものと思っています。

また、研修に来ていただける医師も年毎に増加し、鼠径ヘルニアや虫垂炎等の手術も積極的に行って頂いています。さらに、学術指導も成果を継続しており、神奈川県臨床外科集談会のレジデントプレゼンテーションでは、昨年の銅賞、金賞に続き、今年は銀賞と連続して表彰して頂き、今後の研修医指導の糧となっています。今後も

地域医療支援病院として、また、がん診療連携指定病院 として医療情報共有と高度医療の提供、がん診療体制の 充実及び地域との連携活動を推進したいと思います。こ れからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

(文責:長谷川誠司)



## 済生会若草病院

〒236-8653 横浜市金沢区平潟町 12-1 TEL 045-781-8811 FAX 045-784-5443

当院の前身は西区岡野町にあった恩賜財団済生会神奈川県病院(大正2年9月設立)で、昭和20年の横浜大空襲により焼失後、昭和21年4月15日金沢区平潟町の旧海軍釜利谷工員宿舎を仮病院として診療を再開し、これが現在の済生会若草病院に至っているという歴史のある病院です。

現在は、13の診療科と一般床165床、療養病床34床、計199床の病床を有し、急性・慢性疾患を問わず対応できる地域密着型病院として稼働しています。当院外科が横浜市大消化器腫瘍外科からの派遣となり本年で9年目となりますが、佐藤靖郎部長のもと吉田謙一と、昨年4月から峯岸裕蔵先生が赴任され、計3人体制で外科の診療にあたっています。

手術件数は安定しており、昨年は年間約270症例を経験しました。その一因に鼡径ヘルニアセンターの開設があり金沢区だけでなく横浜市内の多くの患者さんが当院のパンフレットを持参して来院されています。診療部長である佐藤先生の講演も年に10件以上に及び、ヘルニアに関しては36th International Congress of the European Hernia Society, 2014 / Edinburgh, 1st World Conference on Abdominal Wall Hernia Surgery 2015 / Milanなどで研究報告を行いました。病院内外の環境整備も逐次改善中で、平成28年より電子カルテも導入されます。



当院は近隣の病院、開業医との間に緊密な関係を構築する事にも力を注いでおり、昨年は当院と金沢区の開業医の先生方を中心とした内科系の講演会を複数回開催し多くの御参加を頂きました。また平成22年より横浜市大病院との間に癌連携病院の契約が交わされ、療養に時間を要する症例、入院化学療法を希望する症例、癌の術後再発・非切除で緩和医療を要する症例など大学病院では対応困難な症例に対して積極的に受け入れを行っています。平成27年12月より乳腺外科外来が開設され菅江先生が定期的に診療されています。手術症例に於いても胆石症例、ヘルニア症例、大学病院では長期間手術待ちが予測される悪性腫瘍症例などに対しても柔軟に対応しています。神奈川県立循環器呼吸器センター、横浜南共済病

院との連携では近接した地理性、異なる専門性を生かし て、地域医療の充実にも力を注いでいます。

平成28年は講演会の充実、ヘルニアセンター、内視鏡 センターの発展、横浜市大病院との癌連携病院としての 機能向上も含め、済生会若草病院、合わせて外科にとっ

て更なる飛躍の年であるよう、診療の質の向上と機能拡 充とを目指しておりますので、今後とも御指導、御鞭撻 の程、宜しく御願い申し上げます。

(文責:吉田謙一)

#### 地域医療推進機構 (JCHO) 横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1

JCHO横浜保土ヶ谷中央病院となり2年目となりました。 全国57病院が参加しての地域医療推進機構(JCHO)の 一員です。病院規模は変わらず許可病床数260床 (稼動 病床数246) で患者さんは主に近隣の保土ヶ谷区、旭区、 神奈川区の方が多く、地域に密着した医療・健診・福祉 の総合施設として機能しています。JCHOに所属してか ら当院のような赤字病院に対して経営についての指導が 厳しいと感じています。

病院全体の変化として、土曜日隔週で開院していまし たが経営改善を目的に8月から完全週休2日となりまし た。外科に密接に影響するところで、麻酔科医師の退職 により常勤不在となり外科としてかなりつらい状況に陥 りました。救急では二次救急拠点病院B指定から横浜市 二次救急輪番病院になり輪番日のみ時間外緊急手術が可 能といった状況です。今後4月からの麻酔科拡充があり そうなので期待しています。このような状況下、少しで も収益増を目指して一丸となり頑張っています。

H27年度、外科の体制としては、これまで外科を率い てくださった長堀優先生が退職され育成会横浜病院の院 長に就任されました。医員では峰岸祐蔵(H21)が若草 病院に移動となり田中優作(H19)と森康一(H21)が 新たに派遣されましたが、8月で森先生が藤沢市民病院 に移動となりました。現在の診療体制は上向伸幸(H6 年)、齋藤健人(H7年)、谷口浩一(H11年)、小澤真由美 (H15年)、田中優作(H19年)の5名で診療にあたってい ます。昨年より2名減です。小澤先生はまだ子供が小さ いので当直・オンコールからは外していますが、時間外 までよく働いてくれています。

隔週土曜日、みなと赤十字病院・乳腺外科の清水大輔 先生に乳腺専門外来を担当していただいておりましたが 土曜日閉院のため乳腺外来閉鎖となりました。横浜市大・ 形成外科には形成外来を担当していただいており、こち らは継続していただいています。例年同様佐武先生には 乳癌術後の形成手術をお願いし、週2-3例の手術を行って



います。

外科病床は36床、対象疾患は例年同様で消化器癌が中 心ですが呼吸器疾患(気胸、肺転移)、血管外科(AAA、 ASO、シャント、下肢Varixなど)の治療も行っておりま

昨年の手術総数は469件で例年同様でしたが、腹腔鏡 手術を積極的に行う方針とし済生会南部病院の高川先生 から指導をうけ腹腔鏡下ヘルニア根治術を始めました。 治療選択枝が増え患者さんからも好評を得ています。緊 急手術は75件(昨年より-11)でした。ほとんどの手術は 若手が執刀しており、同門会誌をみますと当院の若手1 人あたりの手術数は他病院と比較して劣らない経験数では ないかと考えております。ただかなりの高齢者、かなりの 進行癌が多く術後管理に難渋することも例年同様です。

本年は長堀優先生の退職、人員減、外来縮小、時間外 手術不可と外科にとっては厳しい状況が多かったです が、外科一丸となり何とか乗り切れそうです。来年はま た医局の先生方のお力をお借りし、周辺地域の医療機関 との連携を深め、一層地域医療に貢献していきたいと考 えております。益々のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ ます。

(文責:上向伸幸)

## 横浜掖済会病院

平成27年4月から佐藤芳樹(副院長)、森岡大介(部長)、堀井伸利(平成21年)、山口和哉(平成22年)の常勤4人で診療を行っています。

近隣で開業されている籾山信義先生が主に乳腺の手術 指導、三浦勝先生が主に腹腔鏡視下大腸手術の指導に来 てくださっており、常勤医の専門(佐藤→上部消化管、 森岡→肝胆膵)と合わせると基本的に一般外科で扱うす べての疾患のspecialistがそろっていると考えて差支えな いと思います。

今年度は手術症例数が激減してしまい苦しい1年でしたが、他の施設ではあまりしていないかもしれない血管系の露出をきちんとしたやや拡大気味のリンパ節郭清を原則行うなど、他の施設ではなかなか経験できないことを経験してもらうよう心がけて指導をしていますので、忙しい基幹病院では若手医局員になかなか経験させてあげられないような手術経験を踏むにはよい環境ではないかと自負しています。また肝胆膵領域の癌に対する手術も年間20例前後あり、標準的な症例では執刀のチャンスも与えています。今年度は他の施設ではあまり若手医局員にきちんとやらせる機会のない肝切除を堀井先生、山口先生に複数例執刀してもらいました。またかなりの拡大手術でもできるだけ前立ちで参加してもらうよう心がけていますので、肝胆膵領域もある程度は経験できると思います。

〒231-0036 横浜市中区山田町 1-2 TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

また化学療法、terminal careなど癌再発後の医療も積極的に行っていますので、oncologistとしてのtrainingを初診からお看取りまで総合的に行える環境にあると思います。また当院最大のセールスポイントは時間的ゆとりのある病院であるため、1例1例について熟考熟慮しながら症例に応じたきめ細かい医療を行えることと同時に、手術数は決して稼げませんがskin-to-skinにわたって薀蓄にあふれた手術指導を行っており、かつて在籍した若手の先生方のほとんどから"こんな手術をしたのは初めてです"というお言葉を頂戴していますので他の病院ではできていない若手医局員の教育を行えているのではないかと自負しております。

当院のような中小の急性期病院は消えゆくしかないかのような制度改革がなされている昨今で、実際に患者さんの数も減っておりなかなか苦しい状況ではあります。しかしながら、大病院であるが故の小回りの利かなさで近隣の大病院で診きれない患者さんのbackupを行いながら近隣の開業医の先生方が気軽に紹介できるという当院ならではのmeritを生かし、今後もなお一層努力を続け患者さんだけでなく医局員のみなさんにも魅力的な病院にしていきたいと思います。

(文責:森岡大介)

### NTT東日本関東病院

NTT東日本関東病院の近況報告です。当院では古嶋薫(S54卒)が化学療法センター長と外科主任医長を兼務して、渡辺一輝(H11年卒)は医長として、田鐘寛(H21年卒)、鳥谷建一郎(H25年卒)が医員として勤務しております。基本的に下部消化管手術についてはわれわれのグループで治療にあたっております。

病院内では、2015年12月より手術支援ロボット:ダヴィンチXiが稼働を始めました。院長は泌尿器科医であり、手術件数の増大と手術専門性の向上に推進的であり、本年度は整形外科領域や泌尿器科領域の手術件数が増えてきています。しかし、その分手術室が込み合うことで、緊急手術が入りにくくなっており、人材の確保などの今

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22 TEL 03-3448-6557 FAX 03-3448-6558



後の改善が必要な状況となっております。ただ、手術件 数が増えると、おのずと手術室が活性化し、みな明るく 働いている状況であり、良い方向に進んで行ってくれる ものと思います。

臨床面では、大腸癌手術は200例、腹腔鏡下手術率は 70%で、昨年と同様に推移しています。当院の消化器内 科でのESD件数は全国でも有数であり、そこからの紹介 症例が多くあり、恵まれた状況にあるために一定以上の 件数が維持されています。近隣には有力な病院が多く、 競争力がなければ患者は離れていきます。魅力的な診療 体制の整備とその発信を行い、現状に満足することな く、さらなる発展を目指していこうと考えております。 日々の臨床は非常に忙しい状況ですが、せっかくダヴィ ンチも入りましたので、直腸がんの手術を手がけていけ ればと考えております。

横浜からは少し離れた病院ですが、都内の新しい環境 で働くのもよい経験になると考えます。若い先生で興味 のある先生はぜひともいらしてください。

(文責:渡辺一輝)



## 長津田厚生総合病院

長津田厚生総合病院は、日ノ出町に昭和22年に診療所 として開設し昭和24年に病院に転換した日ノ出町厚生病 院が前身です。その後横浜市北部の開発に伴い昭和30年 に長津田厚生病院が開設され、昭和43年には拠点を日の 出町から長津田に移し、現在の長津田厚生総合病院とし ての診療が始まりました。

病院規模は許可病床数が190床で、そのうち急性期一 般病床が170床、療養型病床が20床です。健診センター や人工透析センターも併設されており、地域に溶け込ん だ病院として機能しています。また2013年に開設した心 臓血管センターでは、経皮的冠動脈形成術(PCI)と末梢 血管インターベンション (EVT) の施術を積極的に行って います。消化器病センターでは、内科と外科の垣根を取 り払い消化器疾患に悩む患者様の視点での治療体制を確 立するよう努めています。

外科は外科部長の簾田と昨年に引き続き三邉が診療を 行っています。2人体制なのは変わらないのですが、腹 腔鏡手術を積極的に行うこととし、胆嚢摘出術はもちろ ん胃癌や大腸癌は基本的に腹腔鏡下に手術しています。 また虫垂切除術も単孔式腹腔鏡下に行っており、さらに 今年からは鼠径ヘルニアも腹腔鏡での手術(TAPP)を 始めました。ただ胃や大腸の腹腔鏡手術の際にはどうし てもscopistが必要となるため、その都度大学に医師の派 遣を依頼することになります。ご迷惑をおかけして大変 TEL 045-981-1201 FAX 045-983-3647

申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願い致します。

症例数はまだまだ十分とは言えませんが、2015年は昨 年より20例増加し147例の手術を施行しました。内訳は 鼠径ヘルニア33例、虫垂切除術11例、胆嚢摘出術26例、 結腸・直腸癌切除術13例 (うち腹腔鏡は7例)、胃癌切除 術7例(うち腹腔鏡は4例)などです。その他胆嚢癌1例、 膵癌1例なども施行しています。多くの中小規模の病院 と同じく高齢で合併症のある症例が多いのですが、今後 も積極的に手術をこなしていきたいと考えております。

また外科では入院患者数増加の一環として末期癌患者 の終末期・緩和医療にも力を入れることとし、近隣の病 院からterminalの患者を積極的に引き受けさせていただ いております。

私立病院の宿命ですが、私たちは絶えず集患に知恵を 絞っており、毎月病診連携講演会を開いて開業医の先生 をお呼びしての講演会と病院の宣伝を行っています。ま た病院の全面改築については数年来構想が練られてきて おり、いよいよ2016年4月より着工となる予定です。新 病院が完成すれば患者数もぐんと増加するであろうと期 待しています。このような中、私達は医療の質の向上と 当院のさらなる発展にこれからも尽力してまいりたいと 思っています。

(文責:簾田康一郎)

#### 一般財団法人 育生会横浜病院

育生会横浜病院は、昭和21年9月、戦災により医療機関がほぼ壊滅し、医療、分娩に窮乏する横浜の状況を憂慮し創立された財団法人が礎となっています。本年創立70周年を迎えますが、設立当初より、通常の医療活動に加え、社会福祉事業法の定めによる無料低額診療事業、特に乳幼児の保健と保育に力を注いできました。そのため、「生まれ育てる会」の意味から、法人名が「育生会」と命名されました。

平成7年、横浜駅西口に程近い岡野町に開設された病院を保土ヶ谷区狩場に移転することになりましたが、この際、将来の日本において極めて重要となる高齢者医療に重点を移すべく、病院、特養、老健の併設が決定されました。母子医療から、医療の質がまったく異なる高齢者医療への大転換を決断したことにより、医療・保健・福祉が隣接する従来にないユニークな複合施設が開設されることになったのです。

入院だけではなく、地域の高齢者やご家族を支え、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようにと、訪問診療も早くから導入しました。医療の大きな柱は、治療(cure:キュア)と介護・養護(care:ケア)の2つのCとされますが、超高齢化

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町 200-7 TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

社会に対応する医療の充実が求められる我が国においては、今後このケアがたいへん重要になってくるものと思われます。「患者さんがいかに自分らしく、どのように生涯を全うできるか」を目指し、患者さんに寄り添い支えるケアを展開していく上で、当院が、果たすべき役割は決して小さくないと考えています。

このような中、平成27年4月に、私と開田脩平先生が 新たに着任し、塩谷名誉院長に補佐いただきながら、業 務を進めているところです。

地域医療を今後さらに推進するために、28年2月1日より、一般病棟の一部を転換し、地域包括ケア病棟37床を開設いたしました。地域の急性期病院での治療終了後、まだ十分回復していない患者さんをこの病棟でお受けし、リハビリを進め自宅や施設にお繋ぎしていきます。さらに、当院の療養病棟は「在宅復帰機能強化加算」を取得していますので、他院の地域包括ケア病棟からの患者さんを、退院後の療養目的でお受けすることも可能です。

病病連携だけではなく、地域のクリニックや訪問看護 センター、そして介護施設などとの連携も深め、訪問診 療を受けている患者さんのレスパイト入院や緊急受け入 れ、さらには看取りもおこなっています。





急性期の治療を終えた高齢者がどのように家庭に帰っ ていくのか、身体の状況に応じて、適切な施設ないしは 在宅介護へと繋ぐために何ができるのかを常に考え、今 後とも地域の医療・介護施設と密に連携を図ってまいり ます。来るべき超高齢化社会において、当院は、地域医 療ケアの中心となって貢献する使命があるものと考えま す。当院の取り組みは、28年1月30日の日本経済新聞夕 刊でも特集され、また地元のタウンニュースにもたびた び取り上げられており、職員一同、おおいにモチベーショ ンが上がっているところです。

私も実務面ではまだ模索するばかりですが、この先も、 医局のご支援を仰ぎながら、開田脩平先生とともに地域 医療充実のため頑張りたいと思います。よろしくお願い 申し上げます。

(文責:長堀 優)

## 港南台病院

TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

2013年4月より大塚が赴任しており、早いもので3年 目となりました。今年も大学医局からは、松山隆生先生、 熊本宜文先生に外来を担当していただいており、また、 若手の多くの先生方に当直業務、訪問診療業務を分担し ていただいております。

済生会南部病院、横浜市大病院、横浜市大センター病 院、済生会若草病院をはじめとした基幹病院からたくさ んの患者さんをご紹介いただき、入院加療の継続、在宅 訪問診療への移行、お看取りなどを行ってきました。

多くの患者さんを担当させていただき、ご本人ご家族 より拝聴したのは、当院への転院が決まった時の不安に ついてでした。基幹病院の先生方の手を離れ、次の病院 ではどのような医師が、継続したケアを行ってくれるの か、一体、何をしてくれるのだろうかという不安につい てです。また、予後が限られた患者さんにとっては、転 院後の方針が曖昧であったがために、最期の大切な時間 が、淡々と過ぎていた印象があることがありました。転 院前に、ご家族に港南台病院に来ていただいて相談する こともありましたが、ただでさえ多忙で心労の重なるご

家族の負担を少しでも減らせる方法はないものか考えて いました。

このような不安を少しでも軽減し、より有意義な最期 の時を過ごしていただくための試みとして、済生会南部 病院からの転院や訪問診療の導入を行おうとしている患 者さんを対象に、「転院前病室訪問」を開始しました。 南部病院の福島部長にお手伝いいただき、ご家族によっ ては南部病院内で2時間近くをかけた転院前面談をする ことができ、細かな計画を立てることができた方もいま す。今後も病院業務の合間を縫い、試行錯誤を繰り返し ながらではありますが、このような経験を積み重ねてい きたいと思っています。

これからも今までと変わらず「困ったときには港南台 病院にちょっと相談してみよう」という気軽な感じでご 相談下さい。何かのお役にたてるものと思います。よろ しくお願い致します。

(文責:大塚裕一)

## 松島病院大腸肛門病センター

〒220-0041 横浜市西区戸部本町 19-11 TEL 045-231-7311 FAX 045-321-7330

「おしりの入口が痛いんです。」という患者さんがおら れます。

さて、お尻は入口でしょうか、出口でしょうか。一般 的に、肛門は排泄腔として出口の役割を担いますが、肛 門外科医と一部の方はそれを入口と表現するかもしれま せん。老若男女、横浜という土地柄、人種も様々な多く の患者さんに受診いただくため、主訴も多様性に富み、

忙しい中にも楽しい外来診療を行わせていただいており

このように肛門の悩みを抱えている方はとても多く、 その疾患内容も、痔核、痔瘻、裂肛はもとより悪性疾患、 精神疾患、分娩外傷による便失禁や直腸脱などの機能性 疾患、炎症性腸疾患、皮膚疾患、排便障害、性感染症と 非常に多岐にわたっております。しかし、その大部分が

良性疾患であり、羞恥心から受診が遅れる事も相まって、 悩みを抱えながら生活している方が多い現状があります。 この幅広い需要に専門家として応えるためには、多くの 症例を集積し、根拠に基づいた治療の革新を求める姿勢 や、人間的にも日々自省と改善、誠意を持って臨む必要 があると感じております。

松島病院は医局の先生方、地域の先生方にご協力をい ただきながら昨年開院90周年を迎えました。次の10年に

向けて社会の需要にお応えできるような施設・環境づく りに力を入れ、常に先生方のお役に立つよう進化し続け なければならないと考えております。どうぞこれからも ご指導ご鞭撻くださいますよう、よろしくお願い申し上 げます。

(文責:井上英美)

## 辻仲病院柏の葉

皆様こんにちは。

辻仲病院柏の葉です。今年は創業者の辻仲康伸先生が 2月27日急逝され、その後の対応にいろいろ追われ上半 期は少しバタバタと過ごしました。葬儀に参列していた だいた先生方には厚く御礼申し上げます。辻仲先生はや はり存在感のある先生でしたので、いなくなられると寂 しい気持ちが起きたり、もしかしたらどこかに隠れてい るのではと思ったりもしています。

病院自体は今年緩和ケア病棟を立ち上げましたが順調 に推移しております。内視鏡件数も2万例を超え、全身 麻酔手術も500例を超えるようになりました。骨盤臓器 脱手術は250例程度、直腸脱手術は100例程度あり腹腔鏡 下での子宮位置矯正術や直腸固定術も多数行っていま

〒277-0871 柏市若柴 178-2 柏の葉キャンパス 148 街区 6

す。内視鏡検査などは3~6か月待ちとなっており患者 様には非常にご迷惑をかけている状態です。医師、看護 師ともに不足しております。募集しておりますのでよろ しくお願いいたします。

去年ノーベル物理学賞を取った梶田教授のいる東大 キャンパスが近くにあり、柏の葉キャンパス駅の名前通 り千葉大キャンパスや国立がんセンター東病院もありま す。商業施設も増えてきており、新しい街としての活気 があるように思います。常磐道柏インターも近いです。

お近くに来られた際には少し寄ってみてください。

(文責:浜畑幸弘)

## 藤沢湘南台病院

藤沢湘南台病院の外科は、旧第1外科から総院長、院 長はじめスタッフ計10名で診療にあたっています。

上部・下部消化管や肝胆膵の悪性疾患、鼡径ヘルニア や胆石・胆嚢炎、炎症性腸疾患、肛門疾患、甲状腺疾患 また肺癌(転移性肺癌を含む)や気胸などの呼吸器系等 の症例も有り多岐にわたって診療を行っており、特に肛 門疾患の手術件数は県内有数です。さらに内視鏡手術も 積極的に行われております。

#### 〒252-0802 藤沢市高倉 2345 TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

旧第2外科からは、小泉が救急部門の責任者として、 当院の救急患者の初期診療とそれに続く初期の入院治療 を行っております。特に消化器系の救急疾患や急性腹症 等に関しては、率先して診療を行っており、外科や消化 器科と協力しながら可能な限り対応しております。

(文責:小泉泰裕)

## 荒川外科肛門科医院

〒116-0002 東京都荒川区荒川 4-3-11 TEL 03-3806-8213 FAX 03-3803-7224

また1年が過ぎた。先輩の先生方におかれましては 益々のご活躍のこととお慶び申し上げます。最近、この コーナーは、自由に書かせていただいてもいいような感 じがしましたので、そうさせていただきたくご了承くだ さい。

当院は、横浜から1時間30分ほどで、JR三河島駅とい う東京都最北近く、荒川区にありますが、品川から直通 電車が通るようになり、横浜からの距離が随分と縮まり ました。松田好雄院長は、私が研修医のときにoben(指 導医)でしたが、お話することもあまりなく、ただただ 後をついていたという感じで、まさか御開業された医院 で、このように長く勤務させていただくことになろうと は、その当時、ゆめゆめ思っておりませんでした。

思い起こせば、この外科にお世話になったのは、学生 時代の授業で拝見した、医局の先生方がご準備された「レ トロなイメージの講義スライド」がきっかけでした。ひ どく懐かしく格調高く、なおかつ真意は変わらないとい うブラックユーモア的なものを感じたのでした。強くこ の外科教室に入局したいという希望が湧きあがり、女性 医師の入局拒否のウワサを聞き、益々その思いはこみあ げ、とうとう一員に加えていただいたのでした。もしか して今でも女性医師拒否の感じがあるとすれば、多少の 視野の狭いこともあるかもしれませんが、そこに存在す る限りは 仲間としておつきあいいただければ幸いだと 思っております。

諸先輩の先生方及び松田院長先生に、この場を借りて 今までご指導賜ったことを深謝致します。諸先輩のご指 導下さったことは今だに走馬灯のように、その時々で 蘇ってくるので本当に有難く、大変恵まれた環境にいた のだと実感しております。

女性医師があまり勤務できない時代に、土屋周二先生 の、「肛門科なら女性患者さんにこれからはよいので は?」という先見の明により、現在も何とか現役を保た せていただいております。松田院長には、その当時ご迷 惑であったかもしれません。松田院長は、今も朝から晩 まで、患者さんの言葉に耳を傾け、手術もこなされ、赤 ひげっぽく、ご努力されておられます。当然私も真似よ うとするのですが患者さんに耳を傾けると、素早い診療 時間とはならず、ほどほどに真似て、あとはやりたいよ うに診療させていただいております。

この1年、ご子息の松田大助副院長(東京医大卒)の 音頭で、事務から看護から内視鏡・手術など、かなり細 かい規則が完成してきました。5月に仲間の大沢晃弘先 生(東邦大出身)が荒川から肛門科医として初めて独立 御開業されました。その後、東大・大腸肛門腫瘍外科の 医局から先生方がいらして下さり、真摯な態度でご診療 される姿にこちらも大変勉強になり、毎日が新鮮な雰囲 気の中におります。消化管内視鏡検査も非常勤の消化器 内科の先生方の指導もあり、小腸造影などは速やかに連 携して対処できるようになっております。

荒川外科肛門科医院では、痔疾患の手術や消化管中心 の診療を行っている大腸肛門外科を専門とする医院です が、大助副院長の采配で、入院期間はかなり短く多様化 し、時代のニーズに連動してきております。1年前と比 べると、外来患者数は3割増、上・下部消化管内視鏡検 査や腹部超音波検査の検査数も増加傾向です。なかなか 忙しい診療所ですが、スタッフ一同一生懸命従事してい ます。

#### 2014年から2015年の業績

消化管内視鏡検査は、上部消化管は2400例、下部消化 管は4567例。「がん」は、大腸がんは104例(うち、大腸 がんは31例)、胃がん20例、食道がん3例。

手術はALTA治療268例、痔核根治手術452例、裂肛根 治手術70例、痔瘻根治手術276例、直腸脱28例。その他 の手術 (腰椎麻酔下) は50例。

同門の後輩、湘南記念病院かまくら乳がん・甲状腺セ ンター 土井卓子先生の、乳がん分野でのご活躍は誠に 嬉しい限りです。後輩女性医師の働き方にも気を配って おられます。医局員の女性医師の姿が一時ほどではない ように感じますが、時折の研究会などでお会いできると、 各々ご活躍されておられる姿に感激し、同時にそれなり に仕事を続けておられると知り、安堵しております。

最後に、医局員の先生方、近隣にいらしたら、是非お 立ち寄りいただければ幸いです。

医局のご発展をお祈り致します。

(文責:大髙京子)

## 平成28年度 関連施設勤務者

(2016年4月1日現在)

#### ●帝京大学ちば総合医療センター 外科

笠原 康平 (平.21)

太田 郁子 (平.14)

〒299-0111 千葉県市原市姉崎3426-3 TEL 0436-62-1211

教授田中邦哉 (平.1)講師松尾憲一 (平.6)助教廣島幸彦 (平.15)

●独立行政法人国立病院機構横浜医療センター 〒245-8575 横浜市戸塚区原宿3-60-2 TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359

統括診療部長 関戸 仁 (昭.58)
 外科部長 松田 悟郎 (平.5) 武田 和永 (平.6)
 外科医長 清水 哲也 (平.9)
 外科医師 渡部 顕 (平.16) 久保 博一 (平.21) 坂本 里紗 (平.21)
 豊田 純哉 (平.26)

#### ●横浜市立市民病院

非常勤勤務

助

手

〒240-0062 横浜市保土ケ谷区岡沢町56 TEL 045-331-1961 FAX 045-332-5599

副病院長 杉田 昭 (昭.54) 消化器外科担当部長 高橋 正純 (昭.58) 乳腺外科長・市民病院癌センター担当部長 石山 暁 (昭.58) IBD科長 小金井一隆 (昭.61) 消化器外科長 望月 康久 (昭.62) 検査部長 千葉 泰彦 (平.2)

乳腺外科担当部長 鬼頭 礼子(平.9) | BD医長 辰巳 健志(平.12) | 医 員 大田 洋平(平.16) | シニアレジデント 村上 剛之(平.26)

●藤沢市民病院

〒251-8550 藤沢市藤沢2-6-1 TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545

長 仲野 明 (昭.53) 診療部緩和ケア科主任部長 江口 和哉 (昭.58) 昇(平.5) 呼吸器外科部長 吉本 山岸 茂 (平.7) 消化器外科部長 外科専門医長 上田 倫夫 (平.6) 牧野 洋知 (平.8) 外科医員 山本 晋也 (平.16) **峯岸 裕蔵 (平.21)** 阿部 有佳(平.23) 山田 淳貴 (平.24) 木村 安希 (平.25)

#### ●伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡196-1 TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

診療部長・外科部長 神谷 紀之 (平.4)

●横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂1-3-2

TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

副病院長・診療部長 亀田久仁郎 (昭.63) 外科科長 長嶺弘太郎 (平.5)

医 員 小暮 悠 (平.22) 山本 淳 (平.23) 高橋 弘毅 (平.24)

●茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 茅ヶ崎市本村5-15-1

TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

乳腺外科部長山田顕光 (平.16)乳腺外科医師三宅謙太郎 (平.19)

●横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町3211

TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

乳腺外科部長 千島 隆司(平.3)

乳腺外科医師 木村万里子 (平.16) 門倉 俊明 (平.18)

外科医師 松木 裕輝 (平.23)

●横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通1-16

TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

 院
 長堀
 薫(昭.53)

 外科部長
 桝井
 秀官(昭.62)

医 長 野尻 和典 (平.12) 渡邉 純 (平.13)

医 員 木村 準 (平.15) 小笠原康夫 (平.19) 朴 峻 (平.23)

田中 淑恵 (平.24) 中崎 佑介 (平.25) 大矢 浩貴 (平.26) 非常勤勤務 太田 郁子 (平.14)

●横浜みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

がんセンター長 阿部 哲夫 (昭.48) 緩和ケアセンター長 小尾 芳郎 (昭.57)

外科部長、肝胆膵外科部長、院長補佐

杉田 光隆 (平.5)

食道・胃外科副部長 小野 秀高 (平.10)

大腸外科副部長 中嶌 雅之 (平.15)

 外科医員
 柿添
 学 (平.16)
 高橋
 直行 (平.20)
 杉政奈津子 (平.22)

鳥谷建一郎 (平.25)

乳腺外科部長 清水 大輔 (平.8)

乳腺外科医員 大石 裕佳(平.26)

#### ●済生会横浜市南部病院

〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10 TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

主任部長 診療部長 院長補佐

福島 忠男 (昭.62)

長谷川誠司(平.2)

医 長 嶋田 和博(平.15)

有坂 早香 (平.20)

高川 亮 (平.15) 須藤 友奈 (平.26)

がん診療支援センター長 診療顧問

池 秀之(昭.54)

#### ●済生会若草病院

〒236-8653 横浜市金沢区平潟町12-1 TEL 045-781-8811 FAX 045-784-5443

副診療部長・外科部長 佐藤 靖郎 (昭.62) 外科医長 吉田 謙一(平.8) 医 員 山口 直孝 (平.13)

#### ●横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1 TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

外科部長 上向 伸幸(平.6) 外科医長 谷口 浩一 (平.11) 医 員 小澤真由美(平.15)

窪田

高畑 太輔(平.25)

## ●横浜掖済会病院

検査科

〒231-0036 横浜市中区山田町1-2 TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

副院長 佐藤 芳樹 (昭.59) 部 森岡 大介(平.5) 長

矢 浅野 史雄 (平.17) 大山倫男(平.18) 員

徹(昭.61)

# ●がん研究会有明病院 外科 (大腸外科) TEL 03-3520-0111 FAX 03-3520-0141

鈴木 紳祐 (平.19) 医 員

#### ●仙台オープン病院 外科

〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-22-1

TEL 022-252-1111

シニアレジデント 須田 睦 (平.26)

# ●がん・感染症センター都立駒込病院 外科(肝胆膵) TEL 03-3823-2101 FAX 03-3823-5433

本間 祐樹 (平.16)

NTT東日本関東病院

〒141-8625 東京都品川区東五反田5-9-22 TEL 03-3448-6111 FAX 03-3448-6558

化学療法センター長・外科主任医長

古嶋 薫 (昭.54)

医 長 渡辺 一輝 (平.11)

医 関澤健太郎(平.19)

●長津田厚生総合病院

〒226-0027 横浜市緑区長津田4-23-1

FAX 045-981-1205 TEL 045-981-1201

外科部長 簾田康一郎(昭.60) 医 員 三辺 大介(平.2)

●育生会横浜病院

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町200-7 TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

名誉院長 塩谷 陽介 (昭.36) 院 長堀 優 (昭.58) 長 矢 員 開田 脩平 (平.20)

●港南台病院

〒234-8506 横浜市港南区港南台2-7-41

TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

大塚 裕一(平.8) 診療部長

聖路加国際病院 乳腺外科

〒104-8560 東京都中央区明石町9-1

TEL 03-3541-5151

喜多久美子(平.17)

▶湘南記念病院 かまくら乳がんセンター

〒248-0027 鎌倉市笛田2-2-60

TEL 0467-32-3456 FAX 0467-32-6363

かまくら乳がんセンター長 土井 卓子 (昭.59)

松島病院

〒220-0041 横浜市西区戸部本町19-11 TEL 045-231-7311 FAX 045-321-7330

医 員 長谷川信吾(昭.62)

●松島ランドマーククリニック

〒220-8107 横浜市西区みなとみらい2-2-1-1 7F TEL 045-222-5577 FAX 045-222-5580

院 松村奈緒美(平.5) 長

●松島クリニック

〒220-0045 横浜市西区伊勢町3-138 TEL 045-241-7311 FAX 045-231-1581

矢 員 森岡 香 (平.9) ●東葛辻仲病院

〒270-1168 我孫子市根戸堀尻946-1 TEL 0471-84-9000 FAX 0471-84-9854

松尾 恵五 (昭.59)

●辻仲病院柏の葉

〒277-0871 柏市若柴178-2 柏の葉キャンパス148街区6

TEL 04-7137-3737 FAX 04-7137-3738

院 長 浜畑 幸宏(昭.59)

●藤沢湘南台病院

〒252-0802 藤沢市高倉2345

TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

救急部 部長 小泉 泰裕 (昭.61)

●宮古島徳洲会病院

〒906-0014 沖縄県平良市松原552-1

TEL 0980-73-1100 FAX 0980-73-1900

副院長 増成 秀樹(平.7)

●関沢クリニック

〒236-0053 横浜市金沢区能見台通8-28

TEL 045-786-8852 FAX 045-786-9293

矢 員 高橋 徹也 (平.2) 山本 晴美 (平.10)

●湘南東部総合病院 総合診療科

〒253-0083 茅ヶ崎市西久保500

TEL 0467-83-9111 FAX 0467-83-9114

荒井 勝彦 (昭.62)